

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	地域生活支援部会（地域生活支援ネットワーク会議）
目的	障がいのある人の地域生活を推進していく上での地域課題について、相談支援事業や障害福祉サービス事業所等で課題となっている事例等を通じて把握し、不足している仕組み・社会資源を満たすための方策を検討する。
役割・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者等に係る地域生活課題の解決に関すること ・地域生活支援ネットワークの整備に関すること
参加者	行政機関、協議会委員、旧地域生活支援拠点 PJ メンバー、専門的相談機関 静岡市障害者相談支援事業所、計画相談支援事業所、地域福祉推進センター 教育関係者、当事者団体、地域生活支援ネットワークコーディネーター
活動内容	<p>平成 30 年度の活動</p> <p>○部会の承認</p> <p>平成 30 年 7 月 25 日（水）開催の第 1 回静岡市障害者自立支援協議会において、地域生活支援部会を地域生活支援ネットワーク会議と位置付け、旧地域生活支援拠点 PJ で検討していた地域生活支援体制の整備について協議を継続することとした。</p> <p>○地域生活支援ネットワーク会議の開催</p> <p>（第 1 回）H30.12.25（火）午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分</p> <p>・地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」の進捗状況について報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公開セミナーの開催状況の報告 別添 チラシ アンケート結果参照 2 「相談」機能の活動 <ol style="list-style-type: none"> ① 静岡市東部地域における相談支援体制の構築 旧由比町・旧蒲原町地域には、指定相談支援事業所が存在しない等障害福祉サービスが偏在している。就労系サービスについては、隣接の富士・富士宮圏域に通所している事例も多い。 清水区障害者相談支援事務局・連絡調整会議において、富士・富士宮圏域相談支援事業所等との意見交換が行われ、サービスの利用実態の把握に努めるとともに、出張相談のあり方について検討している。 ② 相談支援機関の役割分担をするために、「基本相談支援」のあり方について検討を行うために、相談支援専門員が一人の相談支援事業所を中心に訪問を行う（2 月～3 月）。 3 「専門性」機能の活動 <ol style="list-style-type: none"> ① 相談支援専門員アセスメント研修を開催 複合課題を抱えるケースのアセスメントと家族支援をテーマに、事例検討を含め継続研修を行う。【平成 31 年 3 月・平成 32 年度 5 回計 6 回・講師 増田樹郎氏/愛知教育大学名誉教授】（県レベルで開催される相談支援

	<p>専門員研修と重ならないテーマ設定で、要望の多い、困難事例、複合課題アセスメント・事例研修を行う。）</p> <p>② 毎月開催される放課後等デイサービス事業所連絡会（葵区・駿河区/清水区）に出席し、意見交換を行っている。静岡市、玉柏会、静岡市厚生事業協会、静岡市障害者協会共催の「障害者虐待防止研修・自閉症研修」の参加を促し、多くの参加者を得た。</p> <p>③ 地域の実情に即した研修会の開催 静岡保護観察所と連携し、触法障がい者の支援について意見交換、平成31年3月に「性的な被害・加害防止研修」を開催する。</p>
<p>活動方針 (案)</p>	<p>① 富士・富士宮圏域への訪問・（福）庵原福祉会訪問 平成31年1月24日を予定。</p> <p>② 計画相談支援事業所の訪問、聞き取りについては、相談支援部会にフィードバックし、「基本相談支援のあり方」・「一人事業所」の課題を整理する。</p> <p>③ 平成31年3月に実施する「性的な被害・加害防止研修」については、静岡県TSネット(代表高木誠一氏)と連携して実施する。</p> <p>④ 相談支援専門員アセスメント研修については、事例によって、地域包括支援センター・しずおかケアマネット協会及び「子ども部会」と連携して行う。</p> <p>⑤ 「サービス等利用計画」を活用した「災害後の支援」については、計画作成の際に「リスク管理」の視点を組み入れることであり、「相談支援部会」との連携の中で、実現を図っていく。</p> <p>⑥ 第2回地域生活支援ネットワーク会議は3月26日に開催予定。ネットワーク会議開催準備等のため、2月中に地域生活支援部会を開催する（日程調整中）。</p>

障がいのある方の 「地域で安心した暮らし」

を支える公開セミナー

平成30年12月8日(土)
10:00~16:30

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」910会議室

●参加費無料 ●どなたでも参加できます

基調講演

地域福祉の推進から見た地域生活支援拠点に期待するもの
～社会福祉法の改正の視点から～

静岡福祉大学（福祉心理学科）准教授 渡邊 英勝 氏

実践報告

防災の視点からみた『地域生活支援拠点・相談支援事業所との連携』
～広島市におけるサービス等利用計画を使用した『災害後の生活支援』について～
広島市安佐南区障害者基幹相談支援センター リガーレ
障害者相談支援事業所リガーレ 所長 一丸 善樹 氏

シンポジウム

静岡市における地域生活支援拠点及び相談支援事業に期待される役割

申込先・問合せ先

電話又はFAX（セミナー名・氏名・連絡先を記載。書式は自由）でお申込み。
当番法人 **特定非営利活動法人 静岡市障害者協会**（静岡市葵区城内町1番1号 静岡市中央福祉センター）
電話・FAX 054-254-6880（電話 平日 9:00~17:00）

申込期限：12月7日（金） 定員 120名になり次第締切

主催：特定非営利活動法人静岡市障害者協会・社会福祉法人花園会

後援：静岡市・社会福祉法人静岡市社会福祉協議会 協力：静岡市こころのバリアフリーイベント実行委員会

障がいのある方がずっと 地域で暮らしていくためには…



静岡市では、障がい者の居住支援のための機能（相談、体験の機会・場、緊急時の受け入れ、専門性、地域の体制づくり）を整え、障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築することを目的に、「地域生活支援ネットワークまいむ・まいむ」の整備を開始しました。

このネットワークの進捗状況を広く市民の皆さんに報告するとともに、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現が強く提唱される中で、「地域生活支援ネットワークまいむ・まいむ」のあり方、今後の方向性を検討することで、障がいのある方に対する「地域で安心した暮らし」を重層的に支援することを目指して本公開セミナーを開催します。

スケジュール

9:30 開 場

10:00 開会・オリエンテーション

10:30 基調講演『地域福祉の推進から見た地域生活支援拠点に期待するもの
～社会福祉法の改正の視点から～』

静岡福祉大学（福祉心理学科） 准教授 渡邊 英勝 氏

12:00 休 憩 （※昼食は各自ご用意ください）

13:00 実践報告『防災の視点からみた「地域生活支援拠点・相談支援事業所」との連携』
～広島市におけるサービス等利用計画を使用した『災害後の生活支援』について～』

広島市安佐南区障害者基幹相談支援センター リガーレ
障害者相談支援事業所 リガーレ 所長 一丸 善樹 氏

14:00 休 憩

14:15 シンポジウム『静岡市における地域生活支援拠点及び相談支援事業に期待される役割』

コーディネーター 静岡市障害者協会 事務局長 堀越 英宏
助言者 障害者相談支援事業所 リガーレ 所長 一丸 善樹 氏
<シンポジスト>

- ①静岡市自立支援協議会 地域生活支援部会
- ②静岡市清水手をつなぐ育成会会長 佐野 可代子 氏
- ③静岡市暮らし・しごと相談支援センター 所長 安藤 千晶 氏
（社会福祉士・社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 主幹）
- ④千代田地域包括支援センター所長 社会福祉士 鈴木 洋美 氏
（社会福祉法人 天心会）
- ⑤CoAct（旧そなえざあ～静岡） 代表 渡嘉敷 唯之 氏

16:30 閉 会

会 場

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」 910会議室

※お車でお越しの場合、駐車場をご利用いただき、お帰りの際に館内精算機にてご精算ください。

（100円/1時間 入庫後24時間最大1,400円）

障がいのある方の「地域で安心した暮らし」を支えるセミナー
参加者アンケート

1. 回答者の属性 回答総数 32 (参加者60名/回答率53.3%)

(1) 年代

20代	30代	40代	50代	60代以上	未記入	計
1	8	8	10	5	0	32
3.1%	25.0%	25.0%	31.3%	15.6%	0.0%	100%

(2) 性別

男性	女性	未記入	計
19	12	1	32
59.4%	37.5%	3.1%	100%

(3) 所属

当事者団体	地域住民	行政	相談支援事業所	地域包括支援センター	ケアマネ事業所	障がい福祉事業所	教育機関	その他の相談機関	その他	計
4	1	5	8	1	0	4	1	2	6	32
12.5%	3.1%	15.6%	25.0%	3.1%	0.0%	12.5%	3.1%	6.3%	18.8%	100%

※「その他」の内訳

複数(当事者団体・その他の相談機関):1、医療機関:1、その他:3、無回答:1

(4) 参加のきっかけ

事業所に案内があった	会議等で紹介があった	生涯学習センター等でチラシを見た	こくちーずを利用した	知人等の紹介	その他	計
12	8	1	0	4	7	32
37.5%	25.0%	3.1%	0.0%	12.5%	21.9%	100%

※「その他」の内訳

複数(事業所に案内があった・会議等で紹介があった):2、(事業所に案内があった・知人等の紹介):1、Facebook:1、その他:3

2. 基調講演について

(1) 基調講演の内容について印象を教えてください

とても良い7 良い8 ふつう7 少し悪い2 悪い0 無回答8

(2) 地域生活拠点(面的整備型)の枠組み・意味合いについて

とても良くわかった6 まあまあ良くわかった8 ふつう6

分かり辛い点があった2 よくなかった0 無回答10

(3) 社会福祉法の改正による「地域生活課題」の理解・他の専門分野との連携
とても良くわかった4 まあまあ良くわかった11 ふう6
分かり辛い点があった1 よくなかった0 無回答10

(4) 基調講演について自由に記載してください

- 相談員としてどんな知識、技術が必要か整理することができた。特に「地域の中」で実施すべき内容がわかってよかった。〔30代・男性／行政〕
- 「まいむ・まいむ」について、知らないことが多かったので知ることができてよかった。〔30代・女性／相談支援機関〕
- 午後から来たので分かりかねるが、中身が充実していたので基調講演も素晴らしいものだったと推察できる。〔60代・無回答／当事者団体〕
- 障がい者支援に関して決して万全な仕組みができていないこと、地域の住民や各事業所職員がいろいろな問題に気付いていないことに気付いた。支援者側が抱える問題は何か？。要支援者側の問題は何か？。ひきこもりの人をどうしたら掘りおこせるか？。これらに答えられる支援者はいるのか？。各事業所で行っている支援が正しいのかどうか全員が日頃考えて欲しい。〔30代・男性／障がい福祉事業所〕
- 概要は特にわかりやすかった。具体的な計画がわかりづらく、自ら情報のつながりへと行動していきたいと感じた。また、プロセスから得た様々な結果に魅力を感じ、また自らのソーシャルワーク強化へ努めたい。〔30代・男性／障がい福祉事業所〕
- 相談は「まいむ・まいむ」に全て寄せるようにした方がいいのか？。〔50代・女性／相談支援事業所〕
- プロジェクトチームでの協議の過程だけでなく、(背景となる地域福祉学的な)理論の面も話して欲しかった。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 実際の動きも知りたかった。〔40代・男性／相談支援事業所〕
- 自立支援協議会のお話を聞いてよかった。〔50代・男性／その他相談機関〕

3. 実践報告について

(1) 実践報告の内容について印象を教えてください

とても良い15 良い11 ふう0 少し悪い0 悪い0
無回答6

(2) サービス等利用計画に「災害後の支援」の部分を加える意味合いについて

とても良くわかった 12 まあまあ良くわかった 13 ぶつう 1
分かり辛い点があった 0 よくなかった 0 無回答 6

(3) 実践報告について自由に記載してください

- ありのままの話が聞けてよかった。もし、「個人情報保護を理由」にするならば連絡先を把握している行政側が、困っていると思われる障害者等の方に連絡をしてもよいと思った。〔30代・男性／行政〕
- 顔見知りの関係、大事だと思う。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 静岡市内外ではひどい災害がないのでのんびりしているよう。定期的に行っている協会、地域にはもっと行政がかかわるべきだと思う。1時間の報告がだいぶ延長したが難しいことだと思う。〔60代・無回答／当事者団体〕
- 実際の経験から生まれた取り組みはとても重い。経験を経ずにしくみをつくらなければならない。〔60代・男性／その他相談機関〕
- 平時の備えの大切さ、また実例を通じて共に考えさせられる内容、基本情報の収集からネットワークを生かした活動、今後できることのヒントを頂き、自らできる事に行動していこうと思う。〔30代・男性／障がい福祉事業所〕
- 登録台帳に被災後のみ公開の者があった場合の情報共有のしくみについて聞きたかった。
余談だが、熊本の時になし崩し的に福祉避難所になってしまった事例を聞いたが、広島ではどうなったのか気になった。〔50代・男性／当事者団体・その他相談機関・その他〕
- 援助を必要としている方、援助したい組織とのつながりを支える方々の大切さを教えていただくことができた。〔50代・男性／当事者団体〕
- 災害後の生活支援システムに興味あり、大変参考になった。地域の自立支援協議会に内容を持って帰ろうと思う。〔40代・男性／その他（医療機関）〕
- 実際のご苦労、思いが伝わってきた。個人情報の変なカベはとっばらっていたきたい。サービス等利用計画の書式に「同意する」欄はすぐに作れるはずであり、すぐ作ってほしい。
東海、南海大地震が起きたら混乱が大きく、二重三重の個人の安否確認やニーズ把握が必要になると思う。〔50代・女性／当事者団体〕
- “計画相談”の規模（相談員、事業所が何名くらいで…）がわからなかったが、災害時、実際に相談員がネットワーク軽く活動できるか（自分

- が) 不安に感じた。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 顔の分かるつながりが支援者側にも必要なことがわかった。〔40代・女性／相談支援事業所〕
- 利用計画に災害時の項目を入れるのは、大変参考になった。〔40代・女性／相談支援事業所〕
- 非常に参考になった。サービス等利用計画の作成のポイントとして、災害時に必要な情報、計画を入れることがいざという時に活用できるとわかった。静岡市でも取り組みたいと感じた。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 市内でも意思統一できれば協力したい。〔40代・男性／相談支援事業所〕
- おもしろい方ですね。〔50代・男性／その他相談機関〕

4. シンポジウムについて

- (1) どのシンポジストの話題提供に興味をもたれましたか。(いくつでも)
- | | |
|--------------------------------|------------|
| 当事者団体から見た地域生活拠点・相談支援等に対する期待等 | <u>1.8</u> |
| 生活困窮者支援について（生活困窮者の中での障がい者支援） | <u>1.8</u> |
| 地域包括支援センターの立場から「親亡き後の支援について～」等 | <u>1.8</u> |
| 障がい福祉事業所の BCP・関連セミナー、被災地支援等 | <u>1.5</u> |
- (2) シンポジウムの進行について（テーマに対する議論の深まり等）
- とても活発だった 1 活発だった 1.2 ふつう 1.1
 やや低調だった 2 低調だった 0 その他（「活発だった」と「ふつう」の間） 1 無回答 6
- (3) シンポジウムについて自由に記載してください
- 自分が理解できなかつた気がするが、「計画相談」と「災害」あるいは緊急時（万一の時、いざという時）の絡みをもう少し聞きたかった。〔30代・男性／行政〕
 - 普段目の前にある業務に追われ、全体、将来を見据えたものを感じることを忘れてしまうが、日々、顔の見える関係づくりを積み重ねていくことが、平時においても災害時においても大切なことだと改めて感じた。〔40代・女性／行政〕
 - 私は一般の主婦として参加させていただいたが、勉強できて良かった。現在こころのバリアフリープロモーター講座に通っているが、今後なんらかの形で福祉関係のお手伝いをしたいと思っている。〔50代・女性／その他〕
 - コーディネーターが少し遠慮っぽかったような感じがした。方向性をも

っと強引に進めてもよかったような…。時間がもう少し欲しかった。

〔60代・男性／当事者団体〕

- テーマには興味がある。〔60代・男性／その他相談機関〕
- それぞれの立場からの話題提供で共通する内容も多かったと思う。参考にさせてもらいたい。〔40代・男性／その他（医療機関）〕
- 災害時だけでなく、平素からのつながりがやはり大事。
平素のつながりができていないのに、災害時になって急にできるわけがないと思う。生活困窮者、高齢者、障がい者…たくさんの支援を必要としている人がいることを一般の市民の方がリアルに認識しないと市町でやっている防災訓練が形骸化したままで残念である。〔50代・女性／当事者団体〕
- 相談員として日々厚い支援を行うことで、緊急時、災害時に対応できることを改めて実感した。日々厚い支援を計画相談の中で行うためにはどうしたら良いのか市を含めて考えたい。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 各立場からの話が聞け、今後の業務での考えなくてはならないと思います。〔40代・女性／相談支援事業所〕
- テーマは？。生活支援拠点？。防災？。〔50代・男性／教育機関〕
- とても参考になった。今後の相談支援業務に活かしたい。〔30代・女性／相談支援事業所〕
- 各相談窓口からの実際も聞いてよかった。〔40代・男性／相談支援事業所〕
- 障害者相談支援事業所の報告シンポジストはいないのか。状況を聞きたかった。〔50代・男性／その他相談機関〕

5. 会場設営についてのご意見・ご要望を自由に記載してください

- 良いと思った。ありがとうございます。〔30代・男性／行政〕
- 会場内が寒かった。チラシには詳しい次第を載せていただきたかった。〔50代・女性／その他〕
- 9階の会場だったが、初めて来たためにわかりにくかった。〔60代・無回答／当事者団体〕
- 広報活動について、「こくちーず」と併せて「Facebook」のイベントでの告知もあればうれしかった。「こくちーず」では時間の部分がよくわからなかった。〔50代・男性／当事者団体・その他相談機関・その他〕
- スクールソーシャルワーカーなど、児童から見た障がい支援を聞いてみたい。〔50代・男性／その他相談機関〕

以上

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	地域生活支援部会
プロジェクト名	ヘルパー人材確保・養成プロジェクト
目的	障がいのある人の地域生活を支援していく上での地域課題について、相談支援事業における事例等を通じて把握し、不足している仕組み・社会資源を満たすための方策を検討する。具体的な課題として「ヘルパー不足への対応」をテーマとし、対応策について検討する
役割・内容	ヘルパー不足への解消に向けた対応策を検討、実施する
構成員	自立支援協議会委員：斉藤委員 関係機関：静岡市相談支援推進センター、 障がい者ヘルパー事業所ネットワーク静岡 山本代表（座長） その他関係事業所
活動内容	<p>平成 30 年度の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 1 回プロジェクト：平成 30 年 7 月 20 日（金） ○第 2 回プロジェクト：平成 30 年 10 月 18 日（木） ○第 3 回プロジェクト：平成 30 年 12 月 12 日（水） ○第 4 回プロジェクト：平成 31 年 1 月 31 日（木） ○第 5 回プロジェクト：平成 31 年 2 月 21 日（木）〈予定〉 <p>※その他、平成 30 年 10 月中旬より週 1 回ワーキンググループ（2 時間）を実施。</p> <p>第 1 回プロジェクトから第 5 回プロジェクト、約 15 回にわたるワーキンググループの中で、ガイドブックの企画・作成・発行を実施。現状把握のため、市内ヘルパー事業所に対しアンケート調査の実施、今年度未発行、来年度以降配布の予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー向けガイドブック 主な内容：各種サービス支援内容、障がい毎対応手引き、相談先一覧 ・利用者向けガイドブック 主な内容：各種サービス支援内容、フェイスシート、相談先一覧 <p>ヘルパーの働きやすい環境、利用者の利用しやすい環境に整えるための手助けとなるガイドブックを作成することで、お互いが気持ちよく関わり合うことができ、現在従事しているヘルパー数の維持を目指す。</p>

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	地域生活支援部会
プロジェクト名	強度行動障がい者支援施設サポートプロジェクト
目的	障がいのある人の地域生活を支援していく上での地域課題について、相談支援事業における事例等を通じて把握し、不足している仕組み・社会資源を満たすための方策を検討する。具体的な課題として「行動に課題のある人への支援」をテーマとし、支援について検討する。
役割・内容	「行動に課題のある人への支援」として、強度行動障がい者をサポートする施設の対応能力の向上を図る施策を検討、実施する。
構成員	自立支援協議会委員：遠藤委員、檜垣委員 関係機関：静岡市障害者相談支援推進センター 堀越氏（座長） 地域支援サービスまあぶる 望月氏、静岡市清水手をつなぐ育成会 佐野氏 静岡市発達障害者支援センター 山川氏
活動内容	平成 30 年度の活動 ① 入所施設サポート 【事業概要】 強度行動障がい者の支援を専門とするコンサルタントを派遣し、現に入所し処遇に困難を来している方への支援を実践で行い、個別サポートの積み重ねにより施設及び職員の支援力向上を図る。 【対象】 入所系事業所（宍原荘（H29～）、わらしな学園（H30～） 【実績】 6 回（3 回×2 事業所）実施（年度末見込） コンサルタント：水野敦之氏（社会福祉法人つつじ） ② 通所施設サポート 【事業概要】 在宅の障がい者が通所する施設にアドバイザーを派遣し、障がい者や家族への支援方法等を実践で指導。 【対象】 通所系事業所（生活介護、放課後等デイサービス、就労継続支援 B 型等） 【実績】 ・通所施設サポートアドバイザー登録 2 人 ・10 件実施（個別事案） ③ 検証会 【事業概要】 強度行動障がいについての理解・対応、施設サポート支援内容の紹介、事例検証、支援技術の共有等を内容として検証会を実施 【対象】 市指定障害福祉サービス事業者等に従事している者 【実績】 検証会 平成 30 年 12 月 21 日～22 日（講演・演習）延べ 372 人 （虐待防止講演会合同実施）

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	就労支援部会
目的	障がいのある方の就労に関する課題を共有し、改善策の検討及び実現に向けた取組みを行う
役割・内容	障がいのある方の職場定着に向けての具体的な取組みについて検討する
部会員	自立支援協議会委員：中村文久委員（部会長）、池田委員、大野委員、中村章次委員 関係機関：静岡障害者職業センター、静岡市発達障害者支援センター
活動内容	<p>平成 30 年度の活動</p> <p>○第 1 回部会 日時：平成 30 年 6 月 15 日（金）午後 2 時から午後 4 時 内容：・平成 30 年度の活動について ・就労移行支援事業所マップについて【参考資料 2】 ・就労移行支援事業所説明会「就フェス」について ・第 6 回ゆうやけ相談会の開催について</p> <p>○就労移行支援事業所説明会「就フェス」開催 日時：平成 30 年 7 月 27 日（金）午後 1 時から午後 4 時 会場：静岡市役所 新館 17 階 171・172 会議室 ブース設置事業所数：12 事業所 来場者数：52 名（合計）※うち企業・教育関係者 29 名、一般 22 名、報道 1 名 内容：市内企業、障がいのある方の保護者、教育関係者に対し、「就労移行支援」について、実際に就労移行支援事業所による説明を実施（ブース形式）。その他公共職業安定所や障害者就業・生活支援センター、静岡障害者職業センター、行政が一同に会し、説明を実施。</p> <p>○就労定着支援の開始と円滑な実施に伴う調整会議 日時：平成 30 年 10 月 5 日（金）午後 2 時から午後 4 時 内容：新たな障害福祉サービスとして、平成 30 年 4 月から実施された「就労定着支援」の開始に伴い、既存の他就労支援機関等との情報共有、その他調整を図る。</p> <p>○第 6 回ゆうやけ相談会（H28～） 日時：平成 30 年 11 月 8 日（木）午後 5 時から午後 8 時 会場：5 風来館 4 F</p> <p>○第 2 回部会 日時：平成 31 年 1 月 25 日（金）午前 10 時から午前 11 時 45 分 内容：・平成 30 年度の活動について ・平成 31 年度の活動について</p>
活動方針 （案）	圏域内の就労支援機関のレベルアップ及び効果的な連携の強化をより一層図るための取組を協議、検討していくことで雇用率、定着率の上昇に繋げる。

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	相談支援事業評価部会
目的	質の高い相談体制を整備し、相談支援事業の充実・強化を図る
役割・内容	①市相談支援事業の評価基準・評価方法の検討 ②事業者評価の実施
部会員	自立支援協議会委員：池田委員、斉藤委員、中村章次委員 関係機関：アグネス静岡、ピアサポート、清水障害者サポートセンターそら、 静岡市身体障害者団体連合会、 静岡市静岡手をつなぐ育成会（協議会委員兼務）、静心会 オブザーバー：各福祉事務所障害者支援課、地域リハビリテーション推進センター
活動内容	平成 30 年度相談支援事業評価 対象事業所 知的相談支援事業所 3 事業所 ※自己の業務の振り返りとして、自己評価シートについては市内全 11 事業所を対象とした。 1. 第 1 回部会（H30.8.21） 事業評価の実施体制や評価項目、評価シート等について協議。 2. 被評価事業所へのヒアリングの実施（H30.12.5～12.6） 事業所から提出された各種シートや利用者アンケートの結果等について、各事業所を訪問し、相談室を利用してヒアリングを行った。 3. 第 2 回部会（H31.1.16） 総評シートの作成 来年度の事業評価実施方法について検討 （詳細は参考資料 1「平成 30 年度相談支援事業評価」を参照）
活動方針 （案）	2月 平成 30 年度対象事業所に対する評価結果・自己改善計画の通知 3月 自己改善計画の提出 来年度は、障害者相談支援推進事業の事業評価を実施予定

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	権利擁護・虐待防止部会
目的	障がいのある人の権利擁護・虐待防止を推進するため、関係機関と連携し協議・検討を行う
役割・内容	①権利擁護・虐待防止に関する普及・啓発策の検討 ②虐待事例の情報共有及び検証 ③障がい者虐待の早期発見、再発防止策の検討 ④障がい者差別解消に係るネットワークの構築、取組みに向けての検討
部会員	自立支援協議会委員：原田委員（部会長）、渡邊委員、 中村文久委員、飯塚委員、畠山委員 関係機関：ひまわり事業団ピアサポート 劉氏、社会福祉士 安藤氏
活動内容	<p>平成 30 年度 第 1 回権利擁護・虐待防止部会 (H30.7.2) テーマ：静岡市障がい者虐待防止マニュアルについて 静岡市障がい者虐待防止マニュアルについて確認する作業を通じて、事業所虐待の対応方法を検討する必要があることなどが課題としてあげられた。</p> <p>平成 30 年度 第 2 回権利擁護・虐待防止部会 (H30.10.31) テーマ：施設従事者虐待対応について 虐待が起こってしまった時点では対応が困難になってしまっているケースが見受けられるため、予防的な観点も大切であるという意見があった。たとえば、計画相談支援事業所が目標どおりのサービスが提供されているか事業所へ確認しにいたり、実地指導のときに苦情対応体制が整っているか確認したりといった手法が考えられる。</p> <p>平成 30 年度 障害者虐待事例検証会議 (H30.12.26) テーマ：①親族による経済的虐待に係る成年後見制度の活用 ②父親からの虐待と分離 アドバイザー：社会福祉士 安藤 千晶 ①の事例については、後見人がついた時点で関係機関が集まり役割分担をするべきではないかという意見があった。 ②の事例については、分離をしたから支援を止めるのではなく、終結会議において以降の支援方針や役割分担を決めることが大切であると意見があった。 どちらの事例にも共通して、養護者支援の観点も重要であるというアドバイザーからの助言があった。たとえば、分離した後に取り残されてしまう養護者も適切な支援機関につながないと、後に大きな問題になってしまう恐れがあるとのことであった。</p>
活動方針 (案)	今後検討が必要な課題として、長期末終結事例、終結の基準・終結会議における役割分担、成年後見制度の利便性の向上等が挙げられているため、優先順位をつけて段階的に取り組んでいく

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	地域移行支援部会
目的	精神科病院に入院している方、または、障害者支援施設等に入所している方が、地域で生活するために必要となる支援体制の整備など、障がいのある方の地域移行の推進に係る課題や手法等を協議する。
役割・内容	市内精神科病院に長期入院している精神障がいのある方の地域移行や地域生活支援に係る課題の抽出・検討、事例の検証、課題解決のための仕組みづくりを行う。
部会員	<p>自立支援協議会委員：岡庭委員(部会長)、齊藤委員</p> <p>関係機関：静岡県精神科病院協会、日本精神科看護協会静岡県支部、静岡県弁護士会、静岡県作業療法士会、静岡県精神保健福祉士協会、精神障がい者家族会、静岡市民生委員児童委員協議会、基幹相談支援センター、精神系相談支援事業所、ワーキンググループ長、こころの健康センター、精神保健福祉課、(当事者)</p> <p>※<u>当事者</u>については、今後ピアを育成していく過程で部会員として選出する予定。平成 29 年度第 2 回部会よりオブザーバーとして参加している。</p>
活動内容	<p>1 地域移行支援部会（開催：年 2 回）</p> <p>○平成 30 年度第 1 回（平成 30 年 7 月 10 日）</p> <p>【協議内容】①第 5 期障害福祉計画について ～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて～</p> <p>②退院支援専任相談員の取り組み状況と課題について</p> <p>③地域移行支援ワーキンググループの取り組み状況と課題について</p> <p>○平成 30 年度第 2 回（平成 31 年 1 月 22 日）</p> <p>【協議内容】①退院支援専任相談員の取り組み状況と課題について</p> <p>②地域移行支援ワーキンググループの取り組み状況と課題について</p> <p>③静岡市精神障害者地域生活体験支援事業について</p> <p>2 地域移行支援部会ワーキンググループ（開催：月 1 回）</p> <p>(1)平成 29 年度の実践を通して、出来たこと、積み残した課題、新たに見えてきた課題等を整理し、以下の新たなテーマで協議、実践を重ねている。</p> <p>【テーマ】①医療と福祉の連携によるニューロングステイの防止</p> <p>②医療と福祉の横断的・重層的な支援体制の整備</p> <p>③安心できる暮らしを支える人材・ネットワークづくり</p> <p>【具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者家族会との意見交換会（6 月 30 日、7 月 21 日、10 月 13 日） ・支援者向け社会資源見学ツアー（9 月 12・13・19・20 日、11 月 14・15 日） ・院内研修会（10 月 11 日） ・宅建協会との意見交換会（11 月 30 日） ・医療、障がい福祉、介護保険分野との交流講座（1 月 15 日） →駿河区相談支援連絡調整会議事務局会議との共同企画、開催 ・ヘルパー事業所向けアンケート調査の結果分析 →地域生活支援部会ヘルパープロジェクトとの共同でガイドブック作成中 …等 <p>(2)相談支援事業所に配置した退院支援専任相談員の活動報告を通して、事例の検証、地域課題の抽出・検討等を行う。</p>
活動方針 (案)	<p>・2 月～3 月 地域移行支援ワーキンググループの開催</p> <p>・地域移行・地域生活支援に係る課題解決に向けた取り組み、退院支援専任相談員の活動に係る目標の見直し</p>

平成 30 年度 専門部会の活動について

部会名	子ども部会
目的	障害福祉分野だけでは解決できない障害児の課題について、分野を超えて関係機関が集まって課題解決に向けて具体的な協議を実施する。
役割・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児等に係る課題の共有及び解決に関すること。 ・障がい児等の支援の連携に関すること。
第 1 回 部会参加者	<p>自立支援協議会委員：浅野委員、花島委員、飯塚委員、中村章次委員、 畠山委員</p> <p>関係機関：児童発達支援センター、児童相談所、特別支援教育センター 相談調整コーディネーター</p> <p>事務局：障害者相談支援推進センター、アグネス静岡、障害者福祉課</p>
活動内容	<p>子ども部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○準備会の開催 ○部会設置の承認 7月に開催した協議会で部会設置の承認を得る。 ○第1回部会 平成31年1月22日に第1回部会を開催。関係機関の活動と課題について意見交換を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校高等部の進路先の今年度調整経過について 市内の特別支援学校の内の1校で、一般就労を目指しているが進路の決まっていない子が5人、障害福祉サービス等を含め進路の決まっていない子が5人、計10人進路の決まっていない子がいて困っているとのことであった。また、その他に契約先の計画相談支援事業所が見つからない子が5人いるとのことであった。 ・百花園児童発達支援センター「もも」の開設について ・各委員からの課題について（児童相談所との連携について） <p>医療的ケア児等支援プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトの開催 子ども部会準備会の中で、3月～6月にかけて、4回開催。 ○協議内容 「（仮称）医療的ケア児等支援協議会」設立に向け、国や県の動向を確認し、本市の現状や課題について協議。こども病院や中央特別支援学校等で把握している医療的ケア児の人数や、関係機関で把握しているニーズ等を共有した。
活動方針 (案)	<p>子ども部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度中に第2回部会を開催し、第1回部会の検討を踏まえ、平成31年度に取り組むテーマを検討する <p>医療的ケア児等支援プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「（仮称）医療的ケア児等支援協議会」設置に向け協議を実施する